

# 『日本の気候変動2025』の進捗 （評価検討部会活動報告）

---

令和6年12月20日

評価検討部会

# 作業スケジュール（前回懇談会以降）

2025.3中旬予定

現在

公表

2025.4

2024.4

## 執筆・査読等

▼詳細編 2次稿査読  
(2024.2)

部会委員  
にて査読

▼本編 2次稿査読  
(2024.5)

▼詳細編 3次稿査読  
(2024.6)

▼リーフレット 検討開始  
(2024.6)

懇談会委員  
にて査読

▼本編 3次稿査読  
(2024.9)

▼概要版 検討開始  
(2024.10)

▼関係省庁意見照会  
(2024.11)

懇談会・部会委員にて  
最終確認（書面）

▼最終調整・チェック

## 会合

▼第7回懇談会 (2024.2)

第3回に集約

▼第3回部会 (2024.8)

~~▼第4回部会~~

▼第8回懇談会 (2024.12)

## その他

▼地方公共団体等への訪問聞き取り調査  
(2024.5)

# 評価検討部会からの報告事項

- 『日本の気候変動2025』について
- 『日本の気候変動2025』の広報戦略
- 今後の予定

# 『日本の気候変動2025』の構成

## より簡略な説明

- ✓ 気候変動に関する入門資料
- ✓ 初心者向けに講演する際のスライド

都道府県別  
リーフレット

管区・沖縄気象台  
気候変動ウェブサイト

## 概要版

形式：スライド  
pdf版・ppt版

## 本編

形式：報告書  
pdf版・html版

## 詳細編

形式：報告書  
pdf版

気候変動に関する根拠や解説を、要素ごとに観測結果と将来予測に分けて可能な限り平易な表現で簡潔に記述した報告書

- 気候変動に関する基礎資料として閲覧
- 組織等の気候変動担当として最初に読む1冊
- 気候変動を学ぶ学生が最初に読む1冊

## より詳細な説明

- ✓ 気候変動に関する専門資料
- ✓ 本編を読む際に、個別の詳細を辞書的に参照

# 『日本の気候変動2020』からの主な改善点

- IPCC第6次評価報告書等、最新の科学的知見及び成果を反映。
  - 共通社会経済経路（SSP）シナリオに基づいた評価を可能な限り行った。
- 観測結果では、可能な限り最新の期間（～2024年）までデータを延長。
- 将来予測では、最新の気候モデルを用いた結果を使用。
  - 地域的な再現性等が向上したと考えられる。
  - 海洋酸性化等において、モデルを用いた日本近海の将来予測の評価が海洋の水温や流れなどの物理環境と統合的な形で可能となった。
- 100年当たり一回等の頻度で生じるような発生頻度が低い極端現象が、地球温暖化の進行に伴いどのように変化するかについて、確率的表現を用いて評価。
- 過去、現在及び未来までの気候変動を連続的に理解できるように、過去～現在～未来を一連とした情報を提供。

# 極端現象の将来予測に関する情報

## 本編4-2（気温の将来予測）に掲載



工業化以前の時点の気候で100年に一回現れる高温（X°C）の発生頻度



温暖化が各段階まで進んだ場合に「100年に一回の高温」となる気温が、工業化以前の時点の気候における「100年に一回の高温」（X°C）よりどれくらい高くなるか



※2031-2050年頃に発生する可能性はある

100年に一回の極端な高温の発生頻度と強度の変化

## 本編5-2（降水の将来予測）に掲載



工業化以前の時点の気候で100年に一回現れる大雨※2（Xmm）の発生頻度



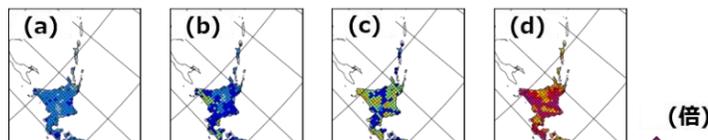
温暖化が各段階まで進んだ場合に「100年に一回の大雨※2」となる降水量が、工業化以前の時点の気候における「100年に一回の大雨」（Xmm）よりどれくらい増加するか



※1 2031-2050年頃に発生する可能性はある  
※2 ここでは日降水量を解析した

100年に一回の極端な大雨の発生頻度と強度の変化

## 詳細編5.2.2（日本の気温の将来予測）に掲載



(注) 解析の途中です

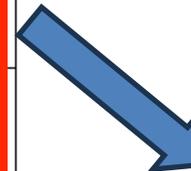
### 100年に一回の極端な大雨（日降水量）の発生頻度の変化

工業化以前の気候下で想定される100年に一回の極端な大雨（日降水量）について、(a) 20世紀末、全球平均気温の (b) 1.5°C、(c) 2°C、(d) 4°C 上昇時での発生頻度の変化（倍）を示す。

# 過去、現在及び未来の日本の気候の変化の一覧表

20世紀初めを基準とし、日本における過去～近年の観測値と、21世紀末の予測値を同じ基準値からの変化として連続的に確認できる表を「まとめ」のページに掲載する。

要素		観測値を使用			予測値を使用	
		20世紀初め (1910～1939年)	20世紀末	近年 (1995～2024年)	21世紀末	
					2°C上昇 シナリオ	4°C上昇 シナリオ
気 温 ※2	年平均気温 の変化	(基準)	(注) 解析の途中です			
	猛暑日の年間日数	0.8日				
	熱帯夜の年間日数	8.6日				
降 水 ※2	日降水量100mm 以上の年間日数	0.8日				
	年平均海面水温 の変化	(基準)				
海 洋	年平均海面水位 の変化	(基準)				



懇談会査読指摘を受けてグラフも追加。



# 地方公共団体等からの意見を踏まえた対応

地方公共団体等への訪問聞き取り調査を実施。（**前回懇談会でのご指摘事項**）

- 『2025』に反映させる

- **本編**

- 降水量の閾値のイメージを追加。
- さくらの開花とかえでの紅葉・黄葉日の変動のコラムを追加。
- 有意水準別表現一覧表へのリンク
- 平均気温1℃上昇の意味
- 各シナリオで1.5/2/4℃になる時期を記載。

- **詳細編**

- 用語集への読み仮名の追加。

- 次回以降/データセットの課題とする

- 将来予測の期間・解像度

- 要望のあった項目（暑さ指数の予測等）の掲載を検討。

- **概要版**

- 文字を少なく図等を増やした初心者向け資料に。

- **リーフレット**

- 県別のニーズに合わせて項目や閾値を決定。
- その地域における10年に一回の大雨へのリンク
- 将来予測の一部情報に絶対値を併記。

- **その他**（2025年度以降）

- 管区別ウェブサイトの内容の充実。
- 副読本/用いる表現一覧

# 『日本の気候変動2025』の広報戦略

- **国、地方公共団体、事業者**の気候変動対策の具体的な根拠として利用してもらうことを目標とし利活用促進を行う。また、広く**国民向け**にも活用しうる内容としていることを踏まえ、一般向けの情報提供・解説も行っていく。
- **国・地方公共団体向け**
  - ✓ **関係省庁及び地方公共団体へ赴き、説明会**を実施。
  - ✓ 地方公共団体等における利用率が高い**都道府県別リーフレット**を、報告書一式と同時に公開し、地方公共団体へ配布（前回は1年以上後に公開）。
  - ✓ **次期気候変動影響評価報告書**にインプット。
    - 『2025』公表時期は、次期気候変動影響評価報告書（2025年度公表予定）へのインプットを考慮。
  - ✓ 気候変動適応広域協議会（全国7ブロック）での情報提供。 等
- **国民向け**
  - ✓ **若者向け広報動画**の作成。
  - ✓ 検索性向上のため、pdf版に加えて**html版ページ及び素材集**も公開。
  - ✓ 各種講演会、政府や関係団体の広報ツールの活用。 等

# 『日本の気候変動2025』の広報戦略

## ● 若者向け広報動画の作成

### ✓ 対話形式により問題提起と概要版への誘導。

⇒これまでの気候変動に関する懇談会や評価検討部会における議論を反映させ、若者の視聴を意識した構成に。

### ✓ 国民に身近で発信力が期待できる、気象キャスターの起用を予定。

- 特に若者向けに短いものがあると良い。
- 気候変動に関する知見を中高生に届けることは重要である。

## ● 検索性向上のため、html版ページ及び素材集も公開

### ✓ 章別アクセスの向上。

### ✓ 検索エンジンでのヒットしやすさの向上。

### ✓ 地方公共団体での普及啓発への活用しやすさの向上。

- これまでこの報告書を知らなかった人がたどり着けるように、検索しやすさを向上。

# 今後の予定

- ✓公表に向けて、気象庁において以下の作業を実施。
  - 懇談会意見を踏まえ修正。
  - 概要版の英語版の作成。
  - 広報動画の作成。
  - html版ページ及び素材集の作成。
  - 最新数値データ差替え。
- ✓公表前（3月）に、懇談会・部会委員にて最終確認（書面）。
- ✓公表後は、戦略に沿って広報を実施。
- ✓公表後の利活用方策の検討や次期報告書作成に向けた振り返りのため、評価検討部会を来年度も継続することとしたい。